

和文誌「電子顕微鏡」, 「顕微鏡」の電子アーカイブ公開のお知らせ

平成 19, 20 年度和文誌編集委員会編集委員長 高井義造

和文誌「電子顕微鏡」, 「顕微鏡」が, 科学技術振興機構 (JST) において実施された昨年度の電子アーカイブ事業の対象誌に選定され, 1949 年の創刊第 1 号から, 2005 年発行の 40 号までの全号が電子データ化され, 2009 年 12 月 9 日付で公開されました。以下の URL, または顕微鏡学会のホームページからご覧頂けるようになりましたのでお知らせします。

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=kenbikyo1950

(または, 顕微鏡学会のホームページから, JEM・顕微鏡 > Journal@rchive へ進んで下さい。)

昨年度の和文誌編集委員会では, 和文誌「顕微鏡」の発行を年 3 回から年 4 回に増やし季刊化を実施し, これを機に和文誌の編集体制と編集業務を抜本的に見直し, 経費削減に向けた取り組みを行いました。また, 論文の掲載スタイルを一部変更し, 執筆者には英語と日本語のアブストラクトを提出して頂くこととしました。これらの英語と日本語のアブストラクトは, 現在ホームページ上にアップロードされており, 一般の方々がインターネットで顕微鏡関連の内容を検索した際に, 和文誌の論文がヒットする可能性を高めることに役立っています。インターネットを通じて顕微鏡学会の活動をより広く知って頂くとともに, 顕微鏡学会の会員になって頂くきっかけになれば有り難いと考え実行しました。

この他の取り組みの中で最も力を入れた事業が, 今回ご報告する和文誌「電子顕微鏡」, 「顕微鏡」の電子アーカイブ化です。和文誌編集委員会にとって長年の懸案事項でありました。創刊号にまで遡る電子アーカイブ化とインターネット上での公開については, 編集委員会で慎重に議論を重ね, 理事会の議を経て最終的に実現することになりました。電子化することで会員の皆様にも手軽に過去の記事に目を通して頂けるようになったことは, 私達の喜びとするところであります。

和文誌「電子顕微鏡」, 「顕微鏡」には, 日本の電子顕微鏡学とその産業を支えた先生方の記事をはじめ, その時々々の先端顕微鏡技術に関する記事が満載されており, 大変貴重な学術資産となっております。これを適正に管理し, 広報し, 広範囲に利用して頂ける体制を築くことは, 本学会の健全な発展に繋がるだけでなく, 公益法人化後の顕微鏡学会の姿勢を世に示すことでもあると思います。今後は, 学会が保有する様々な学術資産のデジタルコンテンツ化を進め, 紙媒体では実現し得ない動画なども配信できる形に改良して公開していただきたいと思います。

創刊号に電子顕微鏡学会の初代会長を務められた瀬藤象二先生が, 学会の創設と和文誌の創刊にあたり, 次のようなお言葉を残されています。

「現在のわが国の経済情勢は著しく悲観的であるために我々の學會もその影響を受け, 使命の達成に困難を感じるようになるであろうと思う。しかし, 學術の進歩發達こそ我々の祖國を眞に建直し, 永遠の生命あるものとする所以の道と確信する我々は, 如何なる困難に遭遇してもその使命達成に不屈不撓の努力を傾注する覺悟を有つべきである。」

戦後間もない頃の大変厳しい時代と私達の今の時代の間には大きな環境の差があるに違いないと思いますが, 學術の進歩發展にかける思いには変わりがなく, 次の世代に脈々と引き継いでいく必要があるように思います。

和文誌にも 1 度廃刊の危機がありました。その時期を乗り越えて下さった先生方のお陰で, 今 100 冊を超える和文誌の電子アーカイブという大きな財産を手に入れることができました。これまでに編集に携わられた先生方に心より感謝申し上げます。最後になりましたが, 今回の電子アーカイブ化のためにご協力下さいました森博太郎先生, 石村和敬先生, 橋本初次郎先生, ならびに旧事務局のリアライズ社山本様に心より厚く御礼申し上げます。